

【教育目標】

【知】自ら学び、考え、進んで行動する人

【徳】互いを尊重し、協力する人

【体】心身ともにたくましく健康な人

杉並区立中瀬中学校

下井草4-3-29 TEL 3399-2196

音楽発表会 『響（ひびき）－2020－』

副校長 安達紀史

10月30日(金)、杉並公会堂において令和2年度音楽発表会が行われました。コロナ禍で開催が危ぶまれていましたが、体育大会に続き、形式を工夫しながら、何とか実施することができました。保護者の皆様には、杉並公会堂の感染症拡大予防対策のため、来場を控えていただくなど、様々な面でご理解とご協力をいただき深く御礼申し上げます。

～コロナに負けずに、頑張りました～

**1年生の合唱では、「力強さ」を感じました。**皆で一致団結して歌い上げることができました。特に、全校で1番目に歌ったC組の一生懸命な姿に感心しました。

**2年生の合唱では、「美しさ」を感じました。**課題曲「木を植える」、谷川俊太郎さんの言葉に込めた思いを、美しい混声四部ハーモニーによって存分に表現することができました。

そして、3年生。厳しい状況下でも、3年生の学年合唱を1・2年生に聞かせたいという思いで、午前と午後に分ける2部形式を採用しました。

**3年生の合唱では、「一体感」を感じました。**短い期間でよくここまで仕上げたなと感心しました。課題曲「大地讃頌」の、最後の「あ～あ～」は、この曲を作った大木惇夫さんの平和への思いが伝わってきました。1・2年生も3年生の背負っている“**音楽の中瀬**”の伝統を感じたに違いないと思います。「**3年生、素晴らしいプレゼントをありがとう。**」

そして**音楽発表会を支えた、実行委員・指揮者・伴奏者の人たち。**君たちの勇気のおかげで、素晴らしい発表会となりました。そして**毎日放課後に、窓や手すりなど、生徒のみんなが触れるところを消毒してくれている用務主事の方々**への感謝も忘れないでください。

3年生は、これから「自分の進路を築く」という人生における試練に向き合っていきます。一人一人がそれぞれ進路に向けて取り組むことになり、「孤独感」を感じることもあるでしょう。でも忘れないでください。音楽発表会で創り上げてきた「一体感」を。共にハーモニーを響かせた仲間がいる、先生がいることを。そして3年生のプレゼントをしっかりと受け止めた後輩たちが、君たちに憧れ、後ろ姿を追いかけているのです。

「君たちは、一人じゃない!!」困ったり、悩んだり、迷ったりしたときには、ぜひ周りの人に相談してほしいと思います。

最後に、3年生が奏でたあの「一体感」は、みんなで心をつなげて協力し合ったからこそ、人に感動を与える歌声になったのです。人は時に、ぶつかり合い、悩み苦しむこともあるけれど、そうすることで、足りないところを補い合え、支え合えるようになり、心を合わせて進んで行けます。中瀬中学校は、これからも**人と人とのつながりを大切にする**教育活動を展開していきます。

# 学年課題曲と各クラスの自由曲 他

	課題曲	A組	B組	C組	D組
1年	夢の世界を	怪獣のバラード	Believe	大切なもの	この星に生まれて
2年	木を植える	虹	友 ~旅立ちの時~	結 ーゆいー	YELL
3年	大地讃頌	走る川	証	桜の季節	言葉にすれば
1年 優秀賞 C,D組 2年 優秀賞 B,D組 3年 最優秀賞A組, 優秀賞B組 指揮者賞 金澤 侑生 (3A) 伴奏者賞 石山 晴菜 (3D)					

合唱を作り上げていくことと音楽発表会を通して、生徒たちが感じた事、考えた事を、作文の抜粋から紹介します。

【1年生】コロナ禍で朝礼もできない中でしたが、朝練の3年生の歌から伝わってくる“合唱への思い”にリードされ、クラスの響きを作ってきました。



<最初は1CDの合同合唱「夢の世界へ」>

<p>…一体感のある練習とは言えなかった。どうしたら男子全員が歌ってくれるのか考えた。答は出ずモヤモヤしたまま時間が過ぎた。</p> <p>…本番、僕は今までで一番大きな声で歌った。だけど賞は取れなかった。とても悔しかった。自分が、練習の時なんて注意をしなかったのか。同級生だから上も下もないのに…</p> <p>1A 大野 奏斗</p>	<p>…練習で「個人」で個性がぶつかり合っていたのに対し、本番で全てが重なり合いハーモニーとなっていた。</p> <p>もちろん苦手な人、得意な人、様々な人が協力して一つのものを作り上げるのは困難だが、素晴らしいと思えた。…行事は自分を成長させてくれていたなど、しみじみ感じる。</p> <p>1A 宮澤 紗希</p>	<p>…僕は、みんなに音程を教える時に心を鬼にして頑張った。でもどんなに熱心になっても、一部の人はきちんと歌ってくれない。そこで、みんながもっと楽しく歌える方向で教えた。すると今まで全然歌ってくれなかった人も少し歌ってくれた。この時の事は、まだ鮮明に覚えている。…</p> <p>1A 尾崎 智容</p>	<p>…時にはA組の取り柄が悪い方に傾き、うるさくてまとまらない時もあった。それでも良い合唱にしようとしてきた。その成果が今、でているのだ。</p> <p>力強く、元気で、パワーのあるハーモニー。まさにこの曲にぴったりの、私たちの目指していた合唱、「私たちの音」だ。</p> <p>1A 砂畑 明音</p>
---	---	--	---

<p>…パートごとに分かれて欠点を出し合い、上手な合唱にするという思いで練習していた。しかしみんなで合わせる時、恥ずかしいからか、歌うふりをして声を出さない人が多数いた。少し残念な気持ちになったが、音が外れてもいいから、声を出し思いを込めて歌うことを目標にした。…</p> <p>練習の中で、生で二年生の合唱を聞く機会があり、思いがこもった歌声に感動した。誰に向かって歌うかを決めることで、恥じらいや適当でいいやという気持ちがなくなる。…</p> <p>1B 齋間 花音</p>	<p>…練習に積極的になれなかった。初日の朝練は頭に入っていない。学校に行ったら男子が練習していても気まずかった。放課後練習：3時を過ぎると、いつ帰れるのだろうと思っていた。</p> <p>暗い気持ちに光が差したのはリハ―サルの時だった。精一杯歌えば、苦手な自分でもみんなの役に立つと思えた。…</p> <p>1B 藤本 和也</p>	<p>…自分のクラスの番が来た時、心音が周りに聴こえていると思うくらいに緊張していました。自分の場所を確認し、顔を上げて客席を見つめ、緊張していてもいいけど、今までの努力を無駄にするなど自分に言い聞かせて歌いました。</p> <p>歌が終わって退場し、自分の席に座り、一呼吸して、やりきったなと思いました。…</p> <p>1B 真下 エリカ</p>
---	---	---



<1A 自由曲指揮>

<p>…歌う番になった。緊張しているかどうかも分からなかった。杉並公会堂は体育館よりずっと声が響いた。本当に声が吸い込まれるような感じだった。でもどこかで声は切れて静かになくなっていく、そんな感じだった。…</p> <p>1C 江崎 将吾</p>	<p>…練習で男子の声が徐々に聞こえるようになってきた時不思議で、ある男子に聞いてみました。すると「一生懸命歌っている人がいるから、自分も歌おうと思った。」と答えました。その時「真剣に一つ一つやれば周りのみんなにも思いは伝わるんだ。」と思いい、私も姿勢や息継ぎに注意し一杯歌いました。…</p> <p>1C 鈴木 瑛巴</p>	<p>…その瞬間頭が真っ白になった。ピアノが、指揮が始まった。何も考えられず、ただ口を動かした。</p> <p>意識が戻ったのは、自分が歌詞を間違えた時だった。申し訳ないと思っただ。…でも皆が大きな声だから間違えたところが聴こえない、みんながフォロワーしてくれるという気持ちになり、そこからのどが枯れるくらい、大きな声で歌いました。…</p> <p>1C 高村 哲平</p>
---	---	---

：歌うたびに前より成長しているクラス。コロナで会話する時間も少なく、男女ですごく仲が良いという事もなく、きれいに統一されているわけでもない。でも合唱が始まったら、きれいに三パートが組み合わさって、声でつながっている…

：スポーツや勉強ができないと浮いてしまいやすいけれど、音楽はみんなで一つになったり、声を出したらそれが重なって、そのメンバーで成り立つ歌が作れることを知りました。 1C 平元 栞

：吹奏楽部やいろいろな学年の演奏を聞いていたら、緊張していた僕の胸も「わくわく」「や」「どきどき」に変わっていった。僕は二週間前の初めての練習を思い出していた。まとまりのなかった僕たちの歌も、最後の練習では一つの歌になっていった。

舞台上上がると観客の目が怖くなり、上手く歌うことができなかった。しかし二週間の頑張りは無駄ではないと感じた。 1D 千賀 由宇

：「人前で喋るのが得意でない私。ずっとどこかではじめをつけよう、そう思っていた。

：クラス発表は言い方ひとつでクラスの第一印象がつく。もし自分のせいで変な印象をもたれたらどうしよう、そんな不安もあった。四日前になっても原稿がまとまらず、他の人にゆずろうと思った時もあった。そんな時、「楽しい時があるから辛い時がある」という言葉を思い出した。もし断念したら、その気持ちを一生味わうことができない。その瞬間、最後まで全力でやると決めた。 1D 大川 史

：合唱は一人では成り立たない。指揮者という重要な役割を担った私。クラスのみんなの歌を導く必要不可欠な存在。当然、簡単な役割ではないし、プレッシャーもあった。不安な気持ちになることだってあった。

それでも私が、自信をもって指揮ができた理由は仲間がいたからだ。みんなが私を見つめて、堂々とした美しいハーモニーを響かせてくれる。少しずつまとまっていくみんなの気持ち。気持ちに乗って響く歌声。私はD組の歌声が観客のみんなの心に届く日が楽しみでしかたがなかった。

：当日、私は落ち着いて指揮ができた。居心地が良かった。やりきれた。だから結果には大満足である。一人では成り立たなかったし、こんな気持ちは味わえなかった。仲間がいて良かった。指揮者ができて良かった。D組で良かった。心の底からそう思っている。 1D 笹村 ひなの



＜2BCの合同合唱「木を植える」＞

【2年生】去年は2学期になったら音楽の授業で練習が始まりました。今年も10月の体育大会後、しかも基本パート別練習で、全員で合わせる機会も少ない。課題曲はバスとテノールに分かれ、自由曲も含め、難易度は1年より格段にアップ。

そんな中でも「さすが2年生」という響きを作り上げました。

：本番に近づくと共にみんなのやる気は高まっていく。歌はない僕は、クラスの一員として堂々としていていいかと、自分に言い聞かせた。次の練習で少し声を出して歌った。

すると今までより自分を楽しませるような音が聴こえてきた。とてもいい気持ちになった。特に自由曲の『虹』は、音と音が重なり合うところがとても好きになった。

：結果は負けた。しかし、音楽が嫌いだった僕が、歌うことの楽しさを見つけたことは、自分にとってもとてもおおい。 2A 青野 權

：だが、四つのパートを合わせてみると、課題が山のように出てきた。リーダーと音発実行委員で解決策を何度も話した。パート練習、合わせと繰り返すうちに、課題も解決していった。しかし、何度練習しても、直らない課題が複数あった。私は、頭を抱えてしまった。

自分のどこがダメなのか、教え方が悪かったのか、どう教えれば良いのかと。迫ってくる本番にあせりも感じながら何度も思った。

リーダーって難しいな。心の底から、本当に思った。自分一人でグイグイ進めてもいけないが、かといって、周りはずっと相談して行動しないのもいけない。リーダーには、行動力・判断力・周りとのコミュニケーション力、この3つが備わっていないとだめなのだと痛感した。 2A 西海 枝 実季

：第一回りハーサル。ソプラノの人は結構声が出ていたが、アルトはほとんど出ていなかった。このままでは危ない。パートリーダーを中心に同じところを納得がいくまで練習したり、少数で歌って聞いている人がアドバイスをしたりと工夫を重ねてきた。そうした努力が実ったのか、少しずつ声も出てきて大城先生にもアルトパートの存在がわかってきたよと言われるほどになった。練習期間は、短いようでも長かったけど最後まで頑張れたと思う。

：成績発表でA組と呼ばれなかった。しかしそれ以上に達成感を感じる事ができたので、とてもうれしかった。音発実行委員の人に感謝でいっぱい。 2A 内藤 早希

：慣れないマスクの合唱。音発なんてまともにできないと思っていた。

だが、あきらめずに大きな声で歌っている人がいた。誰かが大きな声で歌えば、僕は歌えたが、音程やリズムがあっているか不安だった。だけど、それでは一生懸命歌っている人に迷惑をかけると思い、全力で歌ってみた。

最初は音が外れたりしたが、ハーモニーを何度も何度も確認し、完璧に覚え、音が外れないようになった。

：大きな会場と観客に不安になったが自分を信じ、練習してきた成果を全て出した。もし自分が全力を出していなかったら、優秀賞をもらっても、達成感はそのままでなかったらどう。 2B 高橋 英馬

「本気で頑張った」って今ならすっかりと言える。  
：私は、本気で歌うことが恥ずかしくて、中学生になつて本気で歌わなくなつた。1年生の時は、朝練は遅刻、学校に着いても歌わなかつた。本番、結果だけがほしくてがんばって歌つた。本気のつもりだった。でも、それまでの練習をさぼっていた私は、声もみんなより小さく音程も合っていないなかつた。歌い終わっても何となくすっきりしなかつた。

：音発期間になると憂鬱が増した。なぜ一生懸命歌うのか。なぜ、体育大会の個人種目はオープン参加なのに音発は違うのか。逃げる道ばかり探していた。私は、今年はソプラノ、高い声が出しにくい私は更に憂鬱だった。しかし、みんなが一生懸命歌っている中、歌っていないことが恥ずかしくなつた。みんなが全力でとろうとしている優秀賞や、つなげようとしている絆をこわすのが嫌だと思つた。自分もみんなと同じで、勝ちや絆をつかみとりたいと思つた。

私は朝練や放課後練習を全力でがんばつた。悔いがないように。本番、今までで一番いい歌だった。

：2年生になってまた一歩成長できたと思うと嬉しかった。一歩成長できたのは、クラスメートのみんなや先生、一番がんばってくれた音発実行委員の2人などのおかげだと思つ。：2B 猪熊 夏音

：舞台上で歌うと、自分だけが声を出しているようで不安だった。「舞台上では自分の声しか聞こえないかもしれないけど、みんなを信じて！」というアドバイスを思い出し、信じて声を出せた。

：舞台ではかすかに聞こえる、だけど観客席に響く声。とても不思議な気分になつた。

：緊張の中で一生懸命歌っている姿が、全学年共に印象に残っている。これまでの努力や苦勞、団結力が歌に表われていて感動した。

自分も他の人もお互いに成長した、良い音楽発表会だった。：2B 齋藤 乃恵

：本番、とても緊張したが、指揮者の微笑で笑顔になれた。伴奏者もきれいな音色で弾いてくれた。歌う人も心が一つになつたようだ。2年C組の舞台で歌っていてとても楽しかった。：正直B組の音量にはかなわなかつた。それでも諦めず頑張つた。そうして私が得たのは達成感。歌い終わつた時スッキリした。

：音楽発表会と体育大会を終え分かつたことがある。「成功」は決して勝敗ではな。物事を行う際、楽しく達成感が生まれることが「成功」：2C 高野 真帆

：自分のパートが発表された時、気持ちが沈んだ。ソプラノになりたいと思つていたらからだ。：先生は私に「自分の得意なパートばかり歌つていてもだめだよ。」と言つた。確かにそうだ。私は今までアルトになつたことがないのに、苦手だと決めつけていたのだ。：

初めての合わせ練習は、ソプラノにつられてばかりだった。だが、そうならないう頑張りとういう気持ちが生まれ、繰り返し練習し音程を頭に叩き込んだ。

：優勝はできなかったが、全てを出し切つて、達成感と喜びを感じる事ができた。これからも、苦手なことにも挑戦し、その中に楽しさや喜びを見つけていきたいと思つ。2C 中尾 百花



＜吹奏楽部は午前・午後の二回公演＞

：マスクを着けて歌うのも嫌で、練習は参加しただけ。直した方がいいと思つたところも口に出さず。指揮者をやってみたかったが立候補せず。：できないかもしれないなかつたのに用意してくれた音楽発表会、悔しい音楽発表会になつてしまった。  
：来年はちゃんと頑張つて、すがすがしい気分で音楽発表会を終えたい。来年こそは指揮者に立候補しようと思つ。2C 日下すなお

：前日に父から「勝つても負けても、必ず誰かが喜び誰かが悲しむことを忘れてはいけない」と言われた。その時はよく分からなかつたが、本番ようやくわかつた。

：物事には優劣や勝敗がある。どんな状況にも全力で取り組まなければならぬが、その上で、相手に尊敬の念を、喜び悲しみの心情を尊重することを忘れてはならない。

大切なことを学べた音楽発表会だった。2D 宮丸 真依

：クラスの中には、歌が嫌いな人や興味のない人、朝練を面倒くさがる人がいる。その気持ちに感情移入できなくてとても困つたし、合唱部で行っている練習をしても、うまくいかないことがほとんどだった。どうすれば楽しく参加できるのか、どんなやり方だったら嫌がられずにするのか。自問する日々が続くごく疲れていった。

：そんな悩みを少し軽くしてくれたのは、周りの人たちだった。話しているうちに興奮して大きな声になった時や、あせて変なことを話した時は、ソプラノのみんなが指摘してくれた。  
：当日、帰路についた時、友人に実行委員で辛かつたことをこぼしてしまった。話した後、こんな話しなければよかつたと思つた。しかし、友人から返ってきたのは思いがけない言葉だった。

「そんなに張りつめなくても、みれが頑張つてゐるって知ってるから大丈夫だよ。」

母が「頑張つても報われない時はある。でも、その頑張っている姿は、絶対誰かが見えてくれる」と言っていたことを思い出した。：自分の頑張りを見えてくれた。私にはその事実だけで十分だった。2D 山竹 みれ

：学んだことが二つある。一つ目は「練習でできない事は本番でもできない」。今回私は、本番で何とかなると考えていた。でも実際は甘くなかつた。これからは何事にも練習・準備をしっかりして臨みたい。

二つ目は「仲間は大切」ということ。当たり前の事だけど、今回は特に実感した。練習でアルトが上手く歌えない時にアドバイスをくれたり、本番でアルトをカバーするように響かせてくれた他のパートのみんな。本当に感謝したい。：2D 長田 咲優